

能登上布

歴史と特色

崇神天皇の皇女が能登の鹿西町に滞在した折、真麻の上布を作ることを土地の人に伝えたのが始まりと言われている。

元禄年間には、鹿島郡・羽咋郡の女子の主要な副業として織られ、近江商人によって販路が開かれていた。

明治以降も独特の櫛押し捺染や板ヅ、ロール染、型紙捺染と種々の方法により、縞柄や横惣、縮などを生産し飛躍的に伸びた。特に、織幅に十文字縞を120個から140個織り出す組み合わせの正確さにより上布の最高級品とされている。

しかし、生活様式の変化で需要が落ち込んでいるが、後継者育成などに努力が続けられている。昭和35年石川県無形文化財に指定された。

HISTORY & FEATURES

In the Edo period, hemp cloth was woven by women in Kashimangun and Hakui-gun, in Noto, and widely sold in Eastern Japan. Its production increased greatly in the Meiji period because of the development of various techniques and expansion of pattern types. The accuracy of weaving 120 to 140 cross patterns in width is highly evaluated, and Noto hemp products are regarded as first-class. The Noto hemp weaving technique was designated as an intangible cultural asset by the prefecture in 1960.

情報 INFORMATION

主な生産地	羽咋市 (Hakui City)
主な製品名	亀甲縞、十字紋縞 (Honeycomb-pattern and cross-pattern fabrics for kimonos)
主な生産者	山崎麻織物工房 (Yamazaki Hemp Workshop) 〒929-1571 羽咋市下曾祢町ヲ84 TEL (0767) 26-0240



歴史と特色

武器として製造されていた火薬が、江戸中期より娯楽に使用されるようになり、花火が生まれたと言われ、金沢においても当時より製造されていたものと思われる。

金沢では、明治以後大正末まで製造されていた。能登地方においては、昭和初期頃まで祭礼に使用するため各地で花火が製造されていたが、押水町に専業として製造するものが現れ、現在に受け継がれている。

豪華な打ち上げ花火を中心として製造され、県内はもとより主に関西、中部地区で打ち上げられている。

HISTORY & FEATURES

Gunpowder, which had been used as a weapon, came to be used for making fireworks in the middle of the Edo period. Fireworks were produced in Kanazawa from the Meiji period until the end of the Taisho period, and in various areas of Noto until the early Showa period. Now, gorgeous aerial fireworks are produced in the town of Oshimizu, in Noto.

情報 INFORMATION

主な生産地	宝達志水町 (Houdatsushimizu City)
主な製品名	打ち上げ花火、スターマイン、仕掛け花火 (Aerial fireworks, "Starmine" fireworks, set-piece fireworks)
主な生産者	能登煙火株式会社 (Noto Enka Co., Ltd.) 〒929-1313 羽咋郡宝達志水町字東間ヲ3-2 TEL (0767) 28-2514

能登花火